

【棚田地域振興活動加算に関する目標設定】（取組期間は令和11年度まで）

・・・要領の運用第8の2(2)により県第三者委員会 による確認・意見聴取を行うものとされている。

市町村名	集落協定名	加算面積 (㎡)	田面積 (㎡)	畑面積 (㎡)	加算金額 (円)	ア 棚田等の保全に関する目標		イ 棚田等の保全を通じた多面にわたる機能の維持・発揮		ウ 棚田を核とした棚田地域の振興		地域の課題	ア～ウの目標を設定した理由
						目標種別	目標	目標種別	目標	目標種別	目標		
上田市	岩清水集落	101,850	101,850		1,425,900	農業生産性向上	令和11年までに棚田の周囲に侵入防止柵を毎年200m程度設置し、獣害による被害面積をR7年度の48aから3割削減する。	集落機能強化	稲倉の棚田の保全活動に取り組む人数を現状の30人から40人に増加させる。	棚田の価値を活かした活動	現状199組の棚田オーナーを令和11年度までに250組まで増加させる。	①集落構成員の高齢化、人口減少 ②担い手不足 ③鳥獣害の増加	①及び②について棚田の方カワリ隊を増やし、交流人口の増加を図るとともに認知度のアップから集落への移住促進につなげる。また、地元小学校及び都市部の小中学校との農業体験学習を通し、交流を図り将来の農業を担う人材の育成を図る。 ③について、電柵の設置に併せて年4回の全体草刈り及び棚田を5分割しローテーションで草刈りを行い、棚田の保全、美化に努め被害の減少を図る。
伊那市	内の萱集落協定	59,143	59,143	0	591,430	棚田の価値を活かした活動	令和12年3月までに各棚田の保全に取り組む面積を現状維持する。(59,143㎡維持)	農業生産性向上	令和12年3月までに各棚田における鳥獣被害面積及び額を5%以上減少させる。	集落機能強化	令和12年3月までに地域運営組織(区、地区常会等)と連携し地域自治機能強化活動(高齢者の見回り、送迎、買物支援等)を年3回以上実施し、年間30人以上の利用者または参加者を確保する。	①地域の高齢化 ②獣害	①②について、地域全体で高齢化が進む中で、棚田の保全に取り組むことが困難な時を迎えつつある。 地元常会は集落協定の草刈り、水路管理、防護柵の管理に協力し、集落協定は高齢者見回り等の自治機能強化活動に協力することで、相互に活動を支援しあい、棚田保全と集落機能の維持の両立を図り、将来へと棚田の価値を残し続けたい。
伊那市	横山集落	211,753	211,258	495	2,212,554	集落機能強化	令和12年3月まで各棚田の保全に取り組む人数(団体)を現状維持する。(現状28戸)	棚田の価値を活かした活動	令和12年3月までに各棚田及び周辺に各棚田の保全を図る者が景観作物または希少生物のえさとなる植物を1カ所以上作付けする。	農業生産性向上	令和12年3月までに棚田米等を原料とした加工品を1品以上特産品化し、販売を促進する。	①構成員の高齢化 ②担い手不足	①及び②において高齢化による離農が心配されるなかで、横山の自然を守り未来に残していくことを大切なことと思います。これからも地域の棚田を中心とした景観維持に取り組む。
伊那市	山室集落	267,686	267,686	0	3,095,072	農業生産性向上	令和12年3月までに各棚田で自動草刈り機、防除用ドローン、自動給水栓、水田センサー、農地営農管理システム等スマート農業機器をどれか1台以上導入する。	棚田の価値を活かした活動	棚田米を安定生産し、農林水産省が公表する長野県1等米比率以上を維持する。	集落機能強化	農村交流体験イベントを年1回以上開催し、年間20人以上の参加者を確保する。	①担い手の高齢化 ②移住者が増え地域住民の過半数を超える中農村として地域の持続性を確保する。	①担い手の高齢化が進む中、合理化が難しい水田水管理の自動化とドローン防除による合理化、 ②環境変化に対して水田センサーによる生育管理、営農管理システムにより経験が薄い者でも関り易い農業を組み立てる。棚田で生産される農産物の品質維持と農村交流イベントにより棚田地域農業の魅力を作り、担い手育成と移住促進につなげたい。
伊那市	溝口集落	208,277	208,277	0	2,468,546	農業生産性向上	令和12年3月まで荒廃農地の発生防止に努め、棚田面積を維持する。(現状208,277㎡)	棚田の価値を活かした活動	棚田米を安定生産し、農林水産省が公表する長野県1等米比率以上を維持する。	集落機能強化	棚田で農村交流イベント(収穫祭等)を1回以上開催し、20人以上の参加者を確保する。	集落構成員の高齢化、人口減少	高齢化が進み、畦畔等の草刈りに苦しむ現状を、ラジコン草刈りで面積を維持する。 色彩選別機を活用して、1等米比率に努める。 他組織との共催でイベントを開催し、棚田への理解を深める。
伊那市	中尾集落	74,624	74,624	0	975,832	農業生産性向上	令和12年3月までに各棚田で自動草刈り機、防除用ドローン、自動給水栓、水田センサー、農地営農管理システム等スマート農業機器をどれか1台以上導入する。	棚田の価値を活かした活動	棚田で小中学生等に向けた自然ふれあいイベント(自然観察、里山ウォーキング等)の取組を年間1回以上開催し、年間20人以上の参加者を確保する。	集落機能強化	棚田で農村交流体験イベントを年間1回以上開催し、年間20人以上の参加者を確保する。	①集落構成員の高齢化、人口減少 ②担い手不足	①のとおり、中尾集落では高齢化が進み、構成員の高齢化が進んでいる。法面の草刈管理は、特に労力のかかる作業で高齢者には負担が大きいため、斜面草刈機を導入し、作業効率化と労力負担減少を進める。また、棚田まつりの主催を通じて、地域連携を進め、特に地域の子供達との交流を増やし棚田振興を進める。また、同時に外部からも人を呼び込み、移住定住や就農に繋げるため、農作業イベントを年間を通じて計画している。
辰野町	神戸集落	147,692	147,692	0	1,093,210	集落機能強化	新町区神戸第四条会と共同で、草刈、水路、道路の補修等の棚田保全活動に取り組む。	農業生産性向上	菜の花の作付け面積を増やし、参加者の増加を見込む中で我々の取り組みへの理解をいただき、次に継ぐ担い手確保を図りたい。	農業生産性向上	棚田米をモチ米からウルチ米に転換して、地域住民に安価で提供する。	①集落構成員の高齢化 ②担い手不足	①のとおり、神戸集落では、構成員の高齢化が進み、新規に入る構成員もいない状況にあります。今後も農地の保全や道路、水路の草刈等を行っていくため、新町区第四常会と共同で保全活動に取り組む。また、棚田米をモチ米からウルチ米に転換することにより需要に合わせた生産を図っていく。 ②について、菜の花の作付け面積を増やし、景観美化を図ることにより中山間の活動に理解を深めてもらい、次に継ぐ担い手確保につなげていきたい。
中川村	飯沼集落協定	29,442	29,442	0	412,188	農業生産性向上	各棚田の保全に取り組み、加算を受けている面積29,442㎡を維持する。	棚田の価値を活かした活動	田植えや稲刈りをイベント化し、各イベントにおいて集落協定外から10人以上集める。	棚田の価値を活かした活動	棚田米等を原料とした加工品を1品以上生産することを維持する。	高齢化等による担い手不足	生産性が良くないことから、耕作放棄地となりやすいエリアであるが、棚田のある景観については、歴史的側面を含んだ空間の広がりであることから、村のアイデンティティの一部であるモنزとして維持する事が重要であるため。
飯田市	千代集落	15,996	15,996	0	223,944	集落機能強化	【棚田の担い手の確保】 棚田の担い手の確保のため、R6年で19人だったよこね田んぼ守り隊の人数をR11年までに31人に増やす。	棚田の価値を活かした活動	【伝統文化を継承・発信】 地域内外のふれあい・交流による伝統文化を継承・発信のため、手作業による春の田植えから秋のはざかけまでの生産活動をおこなうイベントを行い、R6年で289人だった交流イベント参加人数をR11年までに301人に増やす。	棚田の価値を活かした活動	【棚田地域の魅力の発信】 棚田の魅力を活かし、棚田オーナーの数をR6年の47組からR11年までに50組へと増やし、さらなる農業や棚田地域の魅力を発信につなげる。	千代地区内構成員の高齢化、人口減少 これに伴う担い手不足	千代地区では第4期対策以降、構成員の高齢化が進み、現在では70歳以上の構成員が6割を占め、高齢の構成員が棚田の維持管理が年々難しくなっている。 棚田オーナーなど市外の農業体験や農家民泊を実施を通じて交流人口の増加を図ることで農業の基本と主食食料の大切さを理解してもらう。 また、地元小中学校との交流と棚田の認知を高めることで、千代及び飯田地域に住む若者世代に農業への理解を深めてもらい伝統文化を継承し、将来棚田を担う人材の育成につなげる。
麻績村	市野川集落	85,186	85,186		877,532	農業生産性向上	市野川棚田で自動草刈り機を第5期で1台導入した。自動草刈り機で行う草刈りの面積を延べ100aから120aに増加させ管理・推進を図る。	棚田の価値を活かした活動	もち性大麦の作付を行い、もち性大麦の生産量を延べ1000kgを目指し販路開拓を行う。	集落機能強化	第5期で、農村交流体験イベント参加者数が延べ150人を達成したので、第6期では参加者数を延べ200人に増やし、移住者・移住検討者の増加を図る。	①集落構成員の高齢化、人口減少	①人口減少少子高齢化が進み農地維持が難しい状況になっている。自動草刈り機を導入し法面の草刈り機の効率化、モチ性大麦の生産を増やし新たな特産品開発につなげる。農村交流イベントを引き続き開催し、交流人口を増やし農地維持につなげる。
麻績村	西之久保集落	68,112	68,112		706,396	農業生産性向上	担い手の参加を1名から2名に増加させる。	棚田の価値を活かした活動	景観作物を0.0haから0.1ha植栽する。	集落機能強化	第5期に農村交流体験イベント参加者数を延べ40人を達成し、第6期では農村交流イベント参加者を延べ50人に増やし移住者・移住検討者の増加を図る。	①集落構成員の高齢化、人口減少	①人口減少少子高齢化が進み農地維持が難しい状況になっている。新たな担い手を参加者に加え、棚田の景観を維持するために新たに景観作物を植栽する。農村交流員ベントを引き続き開催し、交流人口を増やし農地維持につなげる。
麻績村	中芝・小東集落	187,495	187,495		1,818,112	農業生産性向上	令和12年3月までに棚田保全活動のかかる作業人員を1名以上増加させる。	棚田の価値を活かした活動	景観作物を0.6aから5aに増加させる。	集落機能強化	農作業等の体験を通じて農業に関心を持ってもらうため、参加者が延べ25名以上を目指す。	①集落構成員の高齢化、人口減少	①人口減少少子高齢化が進み農地維持が難しい状況になっている。新たな作業員を増やし、棚田の景観を維持するために景観作物の栽培面積を増やす。農作業体験参加者を増加させ交流人口を増やし農地維持につなげる。
松川村	鼠穴北部	138,752	138,752	0	1,387,520	農業生産性向上	令和11年度まで棚田地域における耕作放棄率(0%)を現状維持する。	農業生産性向上	棚田地域周辺への電気柵の設置や適切な維持管理を行うとともに、村親友会等と連携して鳥獣被害防止対策を推進し、令和11年度まで棚田地域における鳥獣被害額を減少させる。(R6被害額:9万円)	棚田の価値を活かした活動	棚田地域で発掘された村指定文化財である桜沢遺跡(縄文時代の竪穴式住居)を復元整備した桜沢遺跡公園について、公園内の管理清掃活動を年3回程度実施し、棚田周年の環境美化に努める。	棚田地域の維持保全	鼠穴北部には、縄文時代中期初めの住居跡(桜沢遺跡)が発掘されており、古くから農業を営む集落が形成されていたと考えられる。 昭和30年代に食糧増産のため開田された棚田と、それを取り巻く歴史的な文化財が織りなす景観を後世に残すためにも、景観形成の核となる田畑を適切に維持していく必要があるため。
白馬村	青鬼集落	46,214	46,214		462,140	農業生産性向上	導入した乗用草刈機を活用し、一人あたり年間作業時間を少なくとも10%減らす。	棚田の価値を活かした活動	青鬼棚田地域が属する行政区の祭り(青鬼地区火揉みの神事)を継承し、開催を継続する。(年1回)	集落機能強化	令和12年3月までに棚田保全活動に係るボランティア活動に参加する人数を10人以上増加させる。	集落構成員の高齢化、人口減少	第5期対策で乗用草刈機を導入したことや棚田保全活動に係るボランティア活動に参加する人数を増加させることで担い手、地域住民の負担軽減を図る。 青鬼棚田地域が属する行政区の祭り(青鬼地区火揉みの神事)を継承し、開催を継続することで地域の認知度を高める。 棚田保全活動に参加する人を増やすことで、中山間地域での農業への理解を深めてもらう。
白馬村	野平集落	19,722	19,722		197,220	集落機能強化	令和12年3月までに棚田保全活動に参加する人数を少なくとも1名以上増加させる。	棚田の価値を活かした活動	令和12年3月までに野平の1本桜や棚田と山岳景観を生かした観光名所として観光客を誘致し、目標人数を年間500人とする。	棚田の価値を活かした活動	農業体験イベント(野平酒米関連イベント)での田植え・稲刈り)を継続して開催する。(年1回)	集落構成員の高齢化、人口減少	野平の1本桜や棚田と山岳景観を生かした観光名所として観光客を誘致すること、農業体験イベントを継続して開催することで地域の認知度を高める。
白馬村	堀之内・飯田集落	75,176	75,176		751,760	集落機能強化	保全活動に取り組む人数を1人増加させる。	集落機能強化	鳥獣被害防止のための藪草刈作業を年間2回以上開催する。	農業生産性向上	堀之内・飯田棚田地域が属する行政区に存在する「農かふえ」と連携しながら棚田米を原料とした加工品及び販売品の販売量を3%増加させる。	集落構成員の高齢化、人口減少	堀之内・飯田集落では農業生産法人白馬農場(株)が約60%の農地を借り受けている。藪草刈作業等の保全活動に参加する人を増やすことにより、担い手の負担軽減を図る。 堀之内・飯田棚田地域が属する行政区に存在する「農かふえ」と連携することで、地域の認知度を高める。
小谷村	峯集落	26,258	26,258	0	329,416	集落機能強化	担い手を1名増加させる。	農業生産性向上	鳥獣被害面積を0.5haから0.2ha減少させる。	棚田の価値を活かした活動	収穫祭を年1回開催して、関係人口を1名以上増加させる。	①集落構成員の高齢化、人口減少 ②担い手不足	峯集落では、年々構成員の高齢化が進んでいる現状がある。また、獣害による収量の減少も大きな課題としてあげられる。こうした現状を踏まえて、担い手の増加(関係人口の創出も含め)・獣害対策を目標として挙げた。

【棚田地域振興活動加算に関する目標設定】（取組期間は令和11年度まで）

・・・要領の運用第8の2(2)により県第三者委員会 による確認・意見聴取を行うものとされている。

市町村名	集落協定名	加算面積 (㎡)	田面積 (㎡)	畑面積 (㎡)	加算金額 (円)	ア 棚田等の保全に関する目標	イ 棚田等の保全を通じた多面にわたる機能の維持・発揮	ウ 棚田を核とした棚田地域の振興	地域 の課題	ア〜ウの目標を設定した理由			
小谷村	萩平集落	56,394	56,394	0	579,860	集落機能強化	担い手を1名以上増加させ、持続可能な農用地維持を行う	棚田の価値を活かした活動	景観作物の植栽を0.3haから0.4haに増加させる	農業生産性向上 農業体験などを通じて、関係人口を1〜5名増やす。	①集落構成員の高齢化、人口減少 ②担い手不足	萩平集落では、構成員の高齢化が大きな課題となっており、今後の農地維持といった観点からも重大な問題である。そのため、関係人口の創出から担い手の発掘を大きな目標とした。	
小谷村	土倉集落	151,245	151,245	0	1,584,746	集落機能強化	土倉 原、北の久保、飼場、泥崎地区の各棚田の保全活動に取り組む人数を農地耕作者でない方に協力を得て20名から24名に増員をする。 【生産性向上】各棚田において草刈大型機械(モア)を所有する組織に農道を中心に草刈りを願ひする。水路周辺・電気柵線下へ水田や環境に影響与えないように除草剤を散布して除草作業の省力化を図る。労働時間30%削減させる。	農業生産性向上	自然環境の保全や農地の維持のため、有害鳥獣の捕獲に向けた罠、はこ罠を使い捕獲する。(イノシシ5頭/年間・ハクビシン5頭/年間) また鳥獣害防止電気柵の点検、維持管理を定期的に実施する。パワーボックス、電気線の更新等おこなう。	棚田の価値を活かした活動	棚田より生産される農産物を原料として協定参加組織の「そばの花」レストランで加工品として4月から11月まで150日間位まで営業を増やし(現状30日)販売量を増加させる(現在春、夏、秋のおの1週間程度営業延20日程度)地元ホテルと共同企画して農産物加工体験をする。棚田オーナーを募集し家族連れの農作業体験をさせ(田植え、稲刈り)全量持ち替えられるようにする。	①集落構成員の高齢化、人口減少 ②担い手不足	土倉集落では、構成員の高齢化が喫緊の課題としてあげられる。そのため、関係人口の創出を重点的に取り組む。
小谷村	坪山集落	59,070	59,070		615,740	集落機能強化	地域における離農者を1名以下に抑える。	棚田の価値を活かした活動	多面的機能交付金等を用いて、農業用施設の改修を1か所以上実施し、農用地の維持・保全に取り組む	農業生産性向上	農業用機械のリース、農業法人等への作業委託により、農業生産に係る作業の省力化を行う。	①集落構成員の高齢化、人口減少 ②担い手不足	坪山集落では、構成員の高齢化が課題としてあげられるが、高齢化による離農者の増加も大きな問題である。そこで、離農者を可能な限り減少させることはもとより、離農者が増加しても、農地を維持できる方法(機械導入による作業の省力化)を目標とした。
小谷村	虫尾集落	92,374	92,374	0	1,069,236	集落機能強化	地域内外の協力者(関係人口)を1名以上増やす。	農業生産性向上	鳥獣害対策(電気柵の設置)により農作物被害を3%現象減少させる(現状20%)	棚田の価値を活かした活動	米をJA等に出荷・販売、そばを村内飲食店等へ販売(現状生産量の70%を出荷→90%へ)	①集落構成員の高齢化、人口減少 ②担い手不足	虫尾集落では、構成員の高齢化・担い手不足が課題としてあげられる。そこで、他地域との連携をとることで、マンパワーの不足を補うような目標とした。
小谷村	曾田集落	75,010	75,010		947,460	集落機能強化	耕作放棄率を10%以内に抑える。	農業生産性向上	鳥獣害被害面積を1ha以上にならないように維持する。	集落機能強化	収穫祭を年1回開催し、参加者を5人増加させる。	①集落構成員の高齢化、人口減少 ②担い手不足	曾田集落では、構成員の高齢化が大きな課題となっているため、関係人口の創出による担い手候補の確保に務めるのはもちろんのこと、高齢化による離農者増がひき起こす耕作放棄地の増加を、可能な限り減らすことを目標とした。
小谷村	深原集落	56,840	56,840	0	591,840	集落機能強化	農業用施設の改修等を通じて、5年間の耕作放棄率を1%から0.5%に抑える。	農業生産性向上	棚田の鳥獣被害を5年間平均で現状の0.2haから0.1haに減少させる。	棚田の価値を活かした活動	多面的機能交付金共同取組(長寿命化)の活用により、施設整備を1箇所以上行う。	①集落構成員の高齢化、人口減少 ②担い手不足	深原集落では、構成員の高齢化が課題としてあげられるが、水路等の施設をより管理しやすいように更新し、作業の省力化に務める目標とした。
小谷村	堂の入集落	49,780	49,780	0	511,160	農業生産性向上	農業機械のリース・購入等により、農業生産に係る作業の効率化30%減少させる。(現状主要作業が100日)	集落機能強化	多面的機能交付金等を用いて、農業用施設の改修を1か所以上実施し、農用地の維持・保全に取り組む	棚田の価値を活かした活動	地域で農業生産に係る団体等を組織し、5年間の耕作放棄率を現状の0%を維持する。	①集落構成員の高齢化、人口減少 ②担い手不足	堂の入集落では、構成員の高齢化が課題であり、作業力(マンパワー)の不足が今後大きな課題となるため、施設改修、機械の更新・導入により、より一層の省力化に努めることを目標とした。
小谷村	家の下集落	34,690	34,690	0	346,900	農業生産性向上	多面的機能交付金等を用いて、農業用施設の改修を1か所以上実施し、農用地の維持・保全に取り組む	集落機能強化	・景観植物などを植え、耕作放棄地を1割以上減らす。(現状3ha→2.7ha)	棚田の価値を活かした活動	・関係人口を1名以上増やす。(現状1人)	①集落構成員の高齢化、人口減少 ②担い手不足	家の下集落では、構成員の高齢化が課題としてあげられるが、家の下集落の農地には希少な動植物が生息しており、そうした動植物を保護することで、農地維持に係る関係人口の創出につながるため、棚田の保全を目標とした。
小谷村	越戸外集落	109,010	109,010	0	1,188,860	集落機能強化	令和11年3月までに各棚田の保全参加者を1名以上増やす(現状20名)	農業生産性向上	令和11年3月までに各棚田における鳥獣被害面積を5%以上減少させる 各棚田において草刈り等を行い、人の手の入った美しい田園風景を維持する(現状0組織)	集落機能強化	堀池の各集落にて協議会組織を立上げ、広域的に、農地が維持できる組織体制を確立する(現状0組織)	①集落構成員の高齢化、人口減少 ②担い手不足	越戸外集落は、構成員の高齢化が課題であるが、周辺地域との連携をとることで、作業人員を確保し、農地の維持にかかわる人員を減少させないことを目標とした。
小谷村	立屋千国集落	267,765	267,765	0	2,938,126	集落機能強化	5年間で地域計画に基づく目標地図の達成率を50%にする。	農業生産性向上	農業機器等のリース・購入により、基幹農作業の作業時間を2割減少させる(現状120日)	棚田の価値を活かした活動	多面的機能等の事業の活用により、農業世施設の改修を1か所以上行い、持続可能な農用地維持を実施する。	①集落構成員の高齢化、人口減少 ②担い手不足	立屋・千国集落では、高齢化による人口減少が大きな課題ではあるが、施設改修、機械の更新・導入により、作業の省力化に勤め、農地を維持することを目標とした。
小谷村	元廻集落	44,420	44,420	0	577,880	集落機能強化	電気柵等を整備し、年間の鳥獣被害面積を現状の0.5haから0.2haに減らす。	棚田の価値を活かした活動	多面的機能交付金等を用いて、農業用施設の改修を1か所以上実施し、農用地の維持・保全に取り組む	農業生産性向上	担い手・農業法人等の活用により、年間耕作放棄率を現状の0%に抑える。	①集落構成員の高齢化、人口減少 ②担い手不足	元廻集落では、構成員の高齢化による減少、担い手不足が大きな課題である。そのため、担い手の確保はもとより、農業法人を活用することによる農業生産活動の維持、施設改修による作業の省力化を目標とした。
小谷村	土谷集落	63,894	63,894	0	820,196	集落機能強化	耕作放棄率を10%以内に抑える。	農業生産性向上	鳥獣害被害面積を1ha以上にならないように維持する。	集落機能強化	集落協定内において離農者を10名以内に抑える。	①集落構成員の高齢化、人口減少 ②担い手不足	土谷集落では、構成員の高齢化による離農者の増加が、非常に大きな問題である。そこで離農者の減少を目標とすることはもとより、地域の若手の発掘に勤め、担い手を確保することを目標とした。
小谷村	黒川集落	48,550	48,550	0	542,060	集落機能強化	令和7年度協定面積の1割以上増加させる。(現状8.3ha)	農業生産性向上	居住区へへの鳥獣の侵入防止に加え棚田を活用した里山との緩衝帯機能の維持を図り、鳥獣被害面積を2割以上減少させる。(現状30%)	棚田の価値を活かした活動	北アルプスを望む当地域は棚田を核とした景観の形成を行い、周辺の伐採等を行い、北アルプスを望む棚田を活用し関係人口を1名以上増加させる(現状2名)	①集落構成員の高齢化、人口減少 ②担い手不足	黒川集落では、構成員の高齢化が大きな課題であるが、地域の特産物・景観を活かすことで、関係人口の創出に努めることを目標とした。
小谷村	池原集落	98,046	98,046	0	1,128,820	集落機能強化	棚田に係る施設の修繕等を通じて、耕作農地を現状の11.28haから11.5haに増加させる。	棚田の価値を活かした活動	棚田オーナーのオーナーを1名以上増加させ、棚田の保全に係る関係人口を増加させる。(現状10人)	農業生産性向上	大型農業機器の導入により、作業効率を増加させ、農作業に係る作業時間を半減させる。(現状100日)	①集落構成員の高齢化、人口減少 ②担い手不足	池原集落では、構成員の高齢化による、構成員の減少が課題であるが、棚田オーナー制度を活用した関係人口の増加、作業機械の大型化による作業の省力化に務めることを目標とした。
小谷村	狐塚集落	16,110	16,110	0	191,740	集落機能強化	耕作放棄率を10%以内に抑える。	農業生産性向上	鳥獣害被害面積を1ha以上にならないように維持する。	集落機能強化	収穫祭(仮称)を年1回開催し、参加者を5人増加させる。	①集落構成員の高齢化、人口減少 ②担い手不足	狐塚集落では、構成員の高齢化による減少が課題であるが、棚田に係る行事・イベント等を開催することで、関係人口を増加させ、耕作放棄率を減少させることを目標とした。
小谷村	伊折集落	32,967	32,967	0	370,374	棚田の価値を活かした活動	棚田オーナーの参加者を1名増やす	農業生産性向上	多面的機能交付金等を用いて、農業用施設の改修を1か所以上実施し、農用地の維持・保全に取り組む	集落機能強化	電気柵等の整備により、鳥獣被害面積を現状の0.7haから0.5haに減少させる。	①集落構成員の高齢化、人口減少 ②担い手不足	伊折集落では、構成員の高齢化による人口減少が課題となっている。そこで、棚田オーナー制度を活用し、関係人口の創出に取組み、農地維持に係わる人口を増加させることを目標とした。
小谷村	下里瀬集落	23,206	23,206	0	280,244	棚田の価値を活かした活動	多面的機能交付金共同取組活動(長寿命化)を活用して、1か所以上の施設整備・改修を行う。	集落機能強化	農地集積率を60%以上にし、効率的・持続可能な棚田の保全を行う。	農業生産性向上	農業用機械のリース等による農業機械の導入により、作業効率を現状の作業時間の1/3に抑える。(90日)	①集落構成員の高齢化、人口減少 ②担い手不足	下里瀬集落では構成員の高齢化による人口減少が課題となっており、そうした対策として、効率的な農地維持を目標とし、農地の集積、機械導入による作業の効率化、施設改修による省力化等を目標とした。
小谷村	杓掛集落	32,220	32,220	0	322,200	農業生産性向上	獣害対策(電柵の設置)による生産環境の維持・保全により、被害面積を1割以上減少させる。(現状20%)	集落機能強化	耕作を維持することにより耕作放棄地を1割以上減少させる(現状1.5ha)	棚田の価値を活かした活動	棚田の価値を活かした活動として収穫物を村内事業者へ集荷する(現状0kg)	①集落構成員の高齢化、人口減少 ②担い手不足	杓掛集落では、棚田で採れた作物を飲食店等に提供することにより、棚田を知ってもらう機会を創出することで、関係人口を創出し、構成員の人口減少に対応する策として目標を設定した。
小谷村	中谷集落	78,302	77,242	1,060	962,980	集落機能強化	高齢等により維持管理が難しい協定農地を協定参加者が協力して維持することで、協定面積を10%以上減少させない。	農業生産性向上	鳥獣害被害面積を1ha以上にならないように維持する。	集落機能強化	30団地における棚田オーナー等の関係人口を17組から5組増加させる。	①集落構成員の高齢化、人口減少 ②担い手不足	中谷集落では、棚田オーナー制度を活用した関係人口の創出、農地の集約化等に取り組むことで、構成員の高齢化による人口減少の対策として、目標を設定した。
小谷村	平間集落	27,988	27,988		383,072	集落機能強化	棚田オーナーの参加者を1名増やす	農業生産性向上	令和11年3月までに各棚田における鳥獣被害面積を5%以上減少させる 各棚田において草刈り等を行い、人の手の入った美しい田園風景を維持する(現状35%)	棚田の価値を活かした活動	北アルプスを望む当地域は棚田を核とした景観の形成を行い、地域の担い手を1名以上増やす。(現状2名)	①集落構成員の高齢化、人口減少 ②担い手不足	平間集落では、棚田オーナー制度を活用した関係人口の創出による農業生産活動の維持、収穫物の付加価値化によるブランド化を目標とし、構成員の人口減少対策を設定。
小谷村	梨平集落	24,154	23,314	840	262,372	集落機能強化	電気柵との設置により、年間の鳥獣被害面積を現状の0.5haから0.3haに減らす。	棚田の価値を活かした活動	中山間直接支払交付金等を活用し、5年間の耕作放棄率を現状の7%から5%に減少させる。	農業生産性向上	1名以上の担い手を確保し、持続可能な農用地維持の方法を検討する。	①集落構成員の高齢化、人口減少 ②担い手不足	梨平集落では、構成員の高齢化による人口減少が顕著な課題であり、農地の維持が困難となっている現状がある。そこで担い手の確保を中心的な目標として、耕作放棄率の減少等を目標とした。
飯山市	福島	187,166	187,166		1,871,660	農業生産性向上	草刈機(乗用・トラクター等)を活用し、放棄地の草刈り作業を30a以上実施する。	棚田の価値を活かした活動	福島棚田米として現状0kgのところ750kgの販売を行う。	集落機能強化	田植え、稲刈り等の年間イベントで150人の誘客に取り組む。	①住民の高齢化 ②担い手不足	住民の高齢化が進み、担い手が不足するため棚田の維持管理を行うことが年々難しくなっている。作業の効率化と景観美化を図るために草刈機による除草を進める。また、福島棚田米の販売やを行うことによって地域の認知度を高めることにつなげたい。 ②について、地元小学校との交流を通じて地域に住む若者世代に農業への理解を深めてもらい、伝統文化を継承し、将来、地元の農業を担う人材の育成を図る。
飯山市	北原	136,695	136,695		1,366,950	農業生産性向上	自走式草刈り機を1台導入し作業の省力化を図る。畦畔草刈り機の作業を毎年度300m行う。	棚田の価値を活かした活動	耕作されている棚田の山手側の耕作地を草刈り等の保全を行うとともに、景観植物としてアジサイを毎年2箇所植栽する。	集落機能強化	棚田地域の資源を活用した商品の販売により、棚田のPRを通じた関係人口の創出を行う。棚田のPRチラシの配布数を年間50人以上を確保する。	担い手不足	都市農村交流を通じた関係人口の創出により移住者を募集する。

【棚田地域振興活動加算に関する目標設定】（取組期間は令和11年度まで）

・・・要領の運用第8の2(2)により県第三者委員会 による確認・意見聴取を行うものとされている。

市町村名	集落協定名	加算面積 (㎡)	田面積 (㎡)	畑面積 (㎡)	加算金額 (円)	ア 棚田等の保全に関する目標		イ 棚田等の保全を通じた多面にわたる機能の維持・発揮		ウ 棚田を核とした棚田地域の振興		地域の課題	ア〜ウの目標を設定した理由
栄村	青倉団地	149,805	149,805	0	1,724,266	農業生産性向上	令和11年度までに、自走式畦畔草刈機を活用し、作業の省力化を図るため、畦畔草刈機の導入距離を5年間で250mから750mに増加する。	棚田の価値を活かした活動	令和11年度までに、棚田において生産される米の販売促進を行う。棚田米の販売量を現状の900kgから5年間で3,000kgに増加させる。	集落機能強化	令和11年度までに、棚田における田植え、草刈り、収穫体験など農村交流体験イベントなどを年1回以上開催し、年間10人以上の参加者を確保する。	①集落構成員の高齢化、人口減少 ②担い手不足	①について、70歳以上の構成員が約半数を占めている。作業の効率化を進めるため、自走式畦畔草刈機を導入した草刈り作業を広めていく。 ②について、地元の人材だけでは限界があることから、農村交流体験イベント等の実施を通じて関係人口を創出し、将来的には担い手候補へと育成を図りたい。また、今後の担い手が継続的に農業生産活動に取り組むことができるよう米のブランド化及び販路拡大を通じて、棚田米の販売促進を行う。
栄村	西部地区広域集落協定	211,884	211,884	0	2,156,640	農業生産性向上	令和11年度までに、新たに統合する箕作地区において、自走式畦畔草刈機を1台追加導入し、作業の省力化を図る。畦畔草刈機を導入する水田を0か所から5年間で10か所に増加する。	棚田の価値を活かした活動	令和11年度までに、集落内における棚田周辺の土地において、景観作物を4か所以上植栽する。	集落機能強化	令和11年までに、棚田地域に住む住民の地域イベントに外部の人を募集し、農村交流体験イベントとして年1回以上開催し、年間10人以上の参加者を確保する。	①集落構成員の高齢化、人口減少 ②担い手不足	①について、70歳以上の構成員が約半数を占めている。作業の効率化を進めるため、自走式畦畔草刈機を導入した草刈り作業を広めていく。 ②について、地元の人材だけでは限界があることから、農村交流体験イベント等の実施を通じて関係人口を創出し、将来的には担い手候補へと育成を図りたい。また、関係人口等呼び込みやすいよう景観作物を植栽し、良好な景観の形成を維持していく。
栄村	小滝集落協定	81,524	81,524	0	889,384	農業生産性向上	令和11年度までに、既に導入している自走式畦畔草刈機を活用し、現状水田20か所から5年間で30か所に増加する。	棚田の価値を活かした活動	令和11年度までに、集落内の棚田やその周辺において景観作物(ヤマツツジや山野草など)の植栽を現状100本から200本に増加する。	集落機能強化	令和11年度までに、棚田における田植え、稲刈り、農村維持活動、棚田周辺の古道等の自然環境を活用するなど農村交流イベント等を年1回以上開催し、年間10人以上の参加者を確保する。	①集落構成員の高齢化、人口減少 ②担い手不足	①について、70歳以上の構成員が約半数を占めている。作業の効率化を進めるため、自走式畦畔草刈機を導入した草刈り作業を広めていく。 ②について、地元の人材だけでは限界があることから、農村交流体験イベント等の実施を通じて関係人口を創出し、将来的には担い手候補へと育成を図りたい。また、関係人口等呼び込みやすいよう景観作物を植栽し、良好な景観の形成を維持していく。
栄村	中央地区広域集落協定	156,554	156,554	0	1,587,088	農業生産性向上	令和11年度までに、棚田地域にある農地の管理作業を行うため、除草用機械を導入し、作業の省力化を図る。除草機械を導入する農地を現状0か所から5年間で5か所に増加させる。	棚田の価値を活かした活動	令和11年度までに、集落内の棚田周辺地の鳥獣害対策のための緩衝帯整備として休耕農用地の再整備を1か所以上実施する。	集落機能強化	令和11年度までに、棚田における田植え、稲刈り、農村維持活動、棚田周辺の自然環境を活用するなど農村交流イベント等を年1回以上開催し、年間6人以上の参加者を確保する。	①集落構成員の高齢化、人口減少、担い手不足 ②鳥獣害被害	①について、65歳以上の構成員が約7割を占めているが、30代の若者も2名いる。この若者を将来の担い手として中心に活動できるようにするため、除草機械を導入し、棚田地域の農地の管理作業の省力化を目指す。また、担い手は地元の人材だけでは限界があることから、農村交流体験イベント等の実施を通じて関係人口を創出し、将来的には担い手候補へと育成を図りたい。 ②について、当地域は鳥獣被害が頻繁にある地区があることから、緩衝帯整備の一環として休耕農用地の再整備を実施する。
栄村	原向・長瀬・笹原広域集落協定	126,396	126,396	0	1,383,400	農業生産性向上	令和11年度までに、長瀬の棚田において、コスト削減と労力の軽減、共同化を進めるため、共同育苗の苗の利用者数を現状0人から5人に増加させる。(共同育苗の苗の使用枚数を現状0枚から500枚に増加させる。)	棚田の価値を活かした活動	令和11年度までに、長瀬の棚田において、「棚田カード」を現状0枚から100枚作成し、ブランド米の購入者に棚田カードを送付し、長瀬の棚田を周知する。	集落機能強化	令和11年度までに、長瀬の棚田米のブランド化を図り、販売量(玄米ベース)を現状0kgから1,500kgに増加させる。	①集落構成員の高齢化、人口減少による耕作放棄地の拡大 ②担い手不足	①について、65歳以上の構成員が約7割を占めている。現在耕作している農地の維持や耕作放棄の防止及び生産性向上に繋げるため、今まで各個人で行っていた育苗作業について共同化を進める。育苗の共同化により、コスト削減と労力の軽減を図り、継続的な営農を目指す。 ②について、今後の担い手が継続的に農業生産活動に取り組むことができるよう米のブランド化及び販路拡大を目指す。またそのブランド米の購入者等に棚田カードを配布し、当地域の棚田を周知すると共に関係人口の創出に繋げたい。

目標設定について

- ア「棚田等の保全に関する目標」
棚田法面の補修、耕作道や棚田進入路等の農作業安全対策の実施、棚田からの土壌流出防止対策の実施等
- イ「棚田等の保全を通じた多面にわたる機能の維持・発揮に関する目標」
農産物の供給の促進、自然環境の保全・活用、良好な景観の形成、伝統文化の継承等
- ウ「棚田を核とした棚田地域の振興に関する目標」
棚田における都市農村交流を通じて関係人口の創出・拡大による地域振興、棚田を観光資源とした地域振興、棚田米等を活用した6次産業課の推進等

ア〜ウ各々に定量的(数値で表せる)目標を一つ以上、計3つ以上の目標を定めてください。

- ◎その3つ以上の目標には、以下①〜③に関する目標を含める必要があります。
- ①棚田の価値を活かした活動(地域の実情に応じたもの)
- ②集落機能強化(人材の確保を含む)
- ③農業生産性の向上

参考:棚田地域の振興に関する基本的な方針について(令和元年8月22日間議決定)